

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月17日）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（3月5日実施）	成果と課題	改善方策
1 教育課程 学習指導	<p>①ICTを活用した組織的授業改善に取り組み、変化の激しい社会に適応できるよう、生徒の資質・能力を高める。</p> <p>②大学進学等の多様な進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①ICTを活用して、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した授業改善を推進する。</p> <p>②個に応じた進路希望実現に向けて、計画的かつ組織的に学習指導及び学習支援を行う。</p>	<p>①各教室の電子黒板を効果的に活用して、主体的に学習に取り組む態度の育成をテーマに、公開研究授業や研究協議を行い、職員全体で組織的に授業改善を行う。</p> <p>②すべての講座で単元の指導と評価の計画を作成し、年間を見通した計画的な授業実践に取り組む。</p> <p>②進路希望の実現に向けて、生徒のニーズに応じた夏期講座や進路指導等の内容の充実を図る。</p>	<p>①ICTを効果的に活用した主体的に学習に取り組む態度の育成に向けた授業改善を推進できたか。（担当者による評価、生徒による授業評価）</p> <p>①年間を通した組織的な授業研究に対して、職員の意識が高まったか。（職員アンケート）</p> <p>②単元の指導と評価の計画をすべての教科・科目で適切に作成し実践することができたか。（担当者による評価）</p> <p>②多様化する生徒個々の進路実現に向けた取組を推進することができたか。（担当者による評価）</p>	<p>①電子黒板によって教材の提示や動画の活用をスムーズに行うことができ、生徒の学習意識を向上させる授業展開を全職員で模索することができた。</p> <p>職員アンケートでは、自分の考えになかった授業方法を知ることができたという前向きな意見があり、職員の意識向上に寄与した。</p> <p>②単元の指導と評価の計画を適切に作成することができた。それによって年間の見通しをもって授業を実践することができた。</p> <p>②入試制度も多様化しており、様々なニーズに対応した進路指導を充実させるべく、上級学校ガイダンス等を積極的に実施した。今後さらにスタディサプリや夢ナビ講義動画等を活用し、充実した進路活動が行われるようにしたい。</p>	<p>①ICTの活用については、全職員が意識できている。今後はそれに特化するのではなく、手段の一つとして授業で育成すべき資質や能力を意識した授業づくりに取り組む。</p> <p>②次年度も同様、単元の指導と評価の計画を適切に作成し、年間の授業づくりの道筋を立て進める。</p> <p>②スタディサプリは1・2年次生全員が利用しているが、十分活用できていると言いた難しい。講義動画の視聴等、生徒の利用率がさらに上がるよう工夫を凝らすことが必要である。</p>	<p>①ICTを活用して興味関心を高めた充実した授業展開が実現できている。今後はAIの活用やデジタル教材、ICT教育の成果の蓄積が課題である。</p> <p>また、ICT活用は手段の一つとして、対話活動や校外活動等リアルな体験活動も積極的に行ってほしい。</p> <p>②スタディサプリは、活用の仕方によっては学力の向上が期待できる。生徒の自主性に働きかけ、有効活用をして欲しい。</p>	<p>①ICTの活用について、職員の意識づけができていいる。さらなる深化を目指して、生徒の一人一台端末や電子黒板の効果的な活用だけでなくAIの活用についても取り入れていきたい。今後は、ただICTを授業で取り入れればよいということではなく、他の活動との組み合わせを考えながら、資質能力の育成を目指した授業づくりを職員で共有していく。</p> <p>②スタディサプリや夢ナビ講義動画は、プログラムが充実しており、進路選択に活用している生徒もいる一方、その手前にとどまり、主体的に活用できているところまで至っていない生徒もいる。</p>	<p>①本校のICT環境に合ったツールを用いながら、その活用方法を模索し続けていく。夏季の校内授業研修会や公開研究授業を通じて、職員全体の意欲向上を目指し、現代社会に適合したよりよい授業づくりについて職員の意思統一を図る。</p> <p>AIの活用方法について、職員間でも生徒間でも知識の差がある分野だと考えられるので、研修等を通じて使い方や指導時の注意点なども共有していく。</p> <p>②スタディサプリを生徒に積極的に活用させるため、教員研修を充実させ、授業内外での動画視聴を促す。夢ナビ講義動画についても、生徒の学びに対する興味関心を高めるための方策をきめ細かく準備する。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>②規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①職員間の教育相談への意識の高まり中で定着した「積極的」アプローチ体制を、より効果的な教育相談につなげる。</p> <p>②校内や地域におけるルールやマナーを確認し、生徒自身が自己の在り方をしっかり考え、自律した行動ができるよう養成する。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が主体的に取組み、協働する態度を育成する。</p> <p>④「横浜緑園高等学校の部活動に係る活動方針」に則った部活動を活性化させて、豊かな人間性を育成する。</p>	<p>①個々の職員から、年次間、さらには年次をまたいだ、組織的な教育相談を実施する。</p> <p>②生徒・保護者・地域等と連携し、生徒が自ら規範意識を高めることができる取組を実施する。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が個人やグループで参加し、主体的に取り組める機会を増やす。</p> <p>④各部活動の活動状況を把握し、部活動の活性化に取り組む。</p>	<p>①サポートドックを中心とした積極的支援を、年次及び職員全体で取り組み、生徒一人ひとりに応じた支援ができたか。（担当者による評価）</p> <p>②生徒自ら規範意識を高め自律した行動ができるようになったか。（担当者による評価、生徒対象アンケート）</p> <p>③各行事への取り組みをとおして、主体的に取り組む、協働することができたか。（生徒対象アンケート）</p> <p>④部活動をとおして、充実感や達成感を持つことができたか。（生徒対象アンケート）</p>	<p>①積極的支援を行った結果、生徒だけでなく保護者との連携を進めることができた。また、外部機関や各相談窓口との連携を行い、支援の選択肢が広がった。</p> <p>②規範意識の醸成を目指し、全生徒対象で「制服の意義」について考える取り組みを行った。アンケート結果を通して、生徒は制服の着用が規範意識を高めることができることを理解していることが確認できた。</p> <p>③体育祭、文化祭で、多くの部活動や委員会の生徒が運営に協力すると共に、応援団や後夜祭など多くの生徒が有志として参加し、行事を盛り上げた。実施後のアンケートでも共に高い満足度となった。</p> <p>④本校の部活動方針に則り1年間活動を行い、年度末に実施予定のアンケートにより、部活動の満足度を調査し報告する予定である。</p>	<p>①相談内容の多様化や外部機関との連携増加に伴い、迅速な情報共有が難しい場面が生じている。また、慢性的な職員数不足により、限られた制約の中での支援対応を求められる状況も多々あり、校内での体制の在り方が課題となる。</p> <p>②生徒全体に規範意識を持たせることを深化させながら、校則の見直しをバランスよく行うために、生徒会役員との意見交換会を継続する。</p> <p>③体育館工事のため使用できない状況の中、各行事でより良い運営方法を考えていく必要がある。</p> <p>④アンケートによる満足度調査の結果に基づき、満足度を上げる方策を考えていく必要がある。</p>	<p>①相談内容の多様化・複雑化に伴い、相談体制の在り方については、学校のみならず、外部機関や各相談窓口との連携等、県全体で取り組む必要がある。</p> <p>②規範意識の醸成を目指す中で、制服の意義や着方等の校内ルールについて、生徒自身が考え、意見を持たせるのはとても素晴らしい取り組みである。</p> <p>③文化祭での盗撮等の問題については警備員の配置だけでなく入場者の制限等工夫が必要である。</p> <p>④部活動の満足度を上げて加入率をあげる方策を考える必要がある。</p>	<p>①職員間の教育相談への意識の高まりは定着した。その結果、効果的なプッシュ型面談を行い支援につながるケースが確実に増えている。教育相談をタイムリーに進めていくことが大きな課題である。</p> <p>②生徒会だけでなく全校生徒が制服の意義を考える機会を作り、それをもとに規範意識を高めることができた。課題としては、職員間で統一した指導ができるようにしていくことである。</p> <p>③体育祭、文化祭で、多くの生徒が運営に協力するなど、主体的に取り組んでいた。アンケートでも共に高い満足度となった。</p> <p>④アンケートの結果で、部活動を継続している生徒については、高い満足度であったが、引退前に途中退部している生徒が多いことがわかった。</p>	<p>①より効率的な運用体制・支援体制を構築することが必要である。そのためには、絶対的に人員不足であるため、対応できる職員を確実に増やすことが急務である。</p> <p>②引き続き、保護者・地域・生徒と連携して、生徒の規範意識を高める取組を行うとともに、全職員の意識統一を徹底するための取組が必要である。</p> <p>③文化祭での盗撮等の問題は、来場者の性質によるところが大きく、警備だけでは対応しきれないため、次年度は事前申込制にするなど、来場制限を検討していく。</p> <p>④各部顧問にアンケート結果を共有し、各部の活動計画・活動内容を作成するときに役立ててもらう。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月17日）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（3月5日実施）	成果と課題	改善方策
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができるような進路指導を展開する。	①生徒一人ひとりが探究的な学びを通じて、将来の在り方生き方を模索し、進路希望が実現できるような支援を行う。	①スタサブ等の教員研修で教員個々の指導力を向上させて、教員間での情報交換を活発に行うことで、生徒・保護者への情報提供を充実させる。 ①探究活動の計画を実践することで、将来の在り方生き方を考えさせる。	①教員対象の研修会や日頃の情報共有ができ、生徒の進路実現に向けた取組を推進することができたか。（担当者による評価） ①探究的な学びができたか。（生徒対象アンケート）	①自身の在り方生き方を追求する中で、他者の考えを知り、自身の考えを広め深めていく機会をつくることのできる生徒がいた。 ①ICTを活用しながら、探究活動に広がりが見られ、進路選択でも学びの幅を広げることができた生徒が目立った。	①自身の在り方生き方について、さらに主体的に追求しようとする姿勢が生徒には望まれる。 ①すべての教科・科目で、その日に学んだこととそれまでに学んだことを関連付けて理解しようとする態度を身に付けさせたい。	①進路については、卒業後だけでなく、その先の未来を広く見据えて、生徒自身が自分のキャリア選択ができるような働きかけが必要である。また、社会の一員になるという使命感を感じさせる工夫が必要である。	①定期的実施されるガイダンス等では、自身のキャリア形成について考える生徒は多いが、希望した進路を実現するための具体的な取組が思うように進まない生徒がまだまだ多い。	①次年度から生徒が自らの在り方生き方を考えるための学問適性・職業適性のアセスメント・プログラムを実施し、確かなキャリア形成を目指せるよう指導を行っていく。
4	地域等との協働	①地域の教育力や外部の人材を活用した教育活動を推進する。 ②共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育をすすめる。	①高大（高専）連携をはじめ、外部講師の支援により、キャリア教育のよりいっそうの充実を図る。 ②三ツ境支援学校分教室生徒との学校行事や部活動において、生徒会等を主体とした交流活動を通じてインクルーシブ教育を推進する。	①大学はじめ外部機関や地域等から講師を招聘し、生徒の興味・関心が広がるような取組を行い、高校卒業後の進路開拓に繋げる。 ②対面式、体育祭、文化祭、部活動等において、生徒主体で交流する機会を増やす。	①生徒のキャリア形成に繋がる取組が十分できたか。（担当者による評価） ②生徒会の生徒が、三ツ境支援学校分教室との交流の機会が増えたことで協働する意識が向上したか。（担当者による評価、生徒対象アンケート）	①外部機関や地域から多くの講師を招き、生徒のキャリア啓発に繋がる講演・授業等を提供した。 ②体育祭を分教室と協同開催することができ、アンケートでも協同開催を肯定的に考える生徒が多かった。他の行事での交流も併せて、協働する意識向上につながっていると考えられる。	①外部講師ばかりに頼るのではなく、夢ナビ講義動画等を積極的に視聴することによって、自らの興味・関心を高める。 ②各行事での交流を深めていくとともに、部活動での交流が3つと少ないため、増やしていきたい。	①学校と地域の強いつながりは、慢性的な教員不足の解消にもつながる。 ②インクルーシブ教育は非常に素晴らしい取組である。現在の取組を継続してほしい。また、障がい者との共生だけでなく多文化共生についても積極的に取り組む必要がある。	①高大（高専）連携では、充実した取組が進む一方、連携そのものが形骸化してしまっているケースもある。今後、連携の在り方についても検討していきたい。 ②体育祭での分教室との協同開催は、今年度の大きな成果であったと考える。分教室からは、体育祭の中での生徒同士の交流が、もっとあればよかったとの意見もあった。次年度はさらに交流を深め、他者理解に繋げていきたい。	①外部機関、地域のみならず、夢ナビ講義動画などを活用することで、様々な分野で活躍する方から多くのことを学ばせたい。 ②体育祭において、分教室との協同開催をより充実させるため、生徒同士の交流がより深まるように運営方法を工夫する。多文化共生についても、何か取り組めるものがないか模索していく。
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②本校の教育活動を積極的に発信し、学校の魅力をPRする。 ③教職員の働き方を見直し、教職員自身のウェルビーイングを高める。	①美化意識と防災意識を高め、実際の場面で行動できるようにする。 ②学校説明会などの広報活動において、職員だけでなくボランティア生徒と協力し学校全体で学校の魅力をPRする。 ③学校HPをとおして、多くの中学生に本校の魅力を発信する。	①清掃活動と防災訓練の意義を考え、衛生的な教育環境と安心安全な防災体制を構築する。 ②年度当初にすべての年次でボランティア生徒の募集を行い、学校の魅力を適切に伝えていくよう指導する。 ③学校HPに学校案内や広報資料を掲載し、学校行事や部活動などを随時更新して、分かりやすく新しい情報を提供する。	①衛生的な教育環境と安心安全な防災体制が構築できたか。（担当者による評価） ②学校の魅力を伝えることができ、参加者の期待・要望に答えられたか。（担当者による評価、参加者アンケート） ③学校HPで、学校案内を掲載し、学校行事や部活動などの状況を随時掲載（更新）して、常に新しい情報を提供することができたか。（担当者による評価） ④昨年度よりも時間外勤務の平均が減少したか。また、休暇の取得日数は増えたか。（担当者による評価）	①ゴミの分別と危険個所の把握に重点をおいて指導し、衛生的な教育環境と安心安全な防災体制を構築する態度を育成した。 ②職員だけでなく生徒ボランティアスタッフや部活動生徒の活躍もあり、学校説明会等での参加者アンケートでは好評を得た。広報活動として、学校行事や部活動等の実績をHPに掲載した。また、今年から指定された人権教育の取組も公開することで、常に最新の学校情報を提供することができた。	①生徒間で情報を共有し、衛生・防災意識を高める指導を行い、体制を構築する。 ②ボランティア生徒の募集も継続して行い、上級生が下級生に引き継いでいけるように指導する。部活動等の生徒にも顧問を通じて協力を依頼し、さらに学校の魅力を伝えられるよう取り組む。学校HPでは、引き続き最新の情報を提供することで、学校の魅力を伝える。 ③時間外勤務については最大80時間程度から0時間まで個人差がある。その幅を減らして時間外勤務の平均を減少することを衛生委員会で検討する必要がある。	①衛生・防災意識の向上に引き続き取り組んでほしい。 ②学校の広報誌については保護者向けという印象があるが、中学生やその保護者向けに学校生活の中での一生涯の成長やストーリー、心の変容が分かるような内容が効果的である。 ③教員の時間外勤務については、減少がみられる結果にはなっているが、表面上の減少では意味がないため、持ち帰りの業務なども含めた教員の時間外勤務の減少に取り組む必要がある。	①生徒個人の衛生・防災意識が徐々に向上していると思われるが、情報共有して学校集団としての共通の意識向上を図っていく。 ②HPの更新や広報誌の作成、学校外での説明会などを通じて、広く学校の魅力を伝えることができたと考えられるが、もっと中学生が魅力を感じるような学校紹介を検討していく必要がある。学校行事や授業風景など、高校生活の実情がリアルに伝わる説明を心がけていく。 ③時間外勤務の月平均は18～30時間で、概ね昨年度よりも減少した。持ち帰り業務や勤務時間管理システムに記録されていない時間外勤務の把握と減少が課題である。	①日常の清掃活動、地域貢献である通学路清掃、危険箇所の情報共有であるDIG実習等をとおして学校集団としての衛生・防災意識の向上を図る。 ②学校説明会などで学校紹介ムービーを公開して学校の雰囲気は分かり好評であった。体育祭や文化祭など、中学生にとって魅力を感じる活動を紹介しながら、授業や進路活動などを盛り込んだ紹介ができるよう工夫する。 ③勤務時間管理システムの活用により正確な時間外勤務時間を把握し、衛生委員会を中心に時間外勤務の減少に取り組む。